



ゴルフビジネスのプロが、30年以上回って、見て、聞いて、感じた世界のゴルフ文化をお届け。第24回はニュージーランドのお話です。

**国を代表する誇りが
熱い戦いを生み出す。**

ゴルフでは、メジャーやレギュラーツアーの大会以外にも、国を代表する選手が競技を行う大会があります。ライダーカップや、先日韓国で開催されたプレジデントスカップなどがその一例です。また、来年のリオのオリンピックでは、まさに国を代表する選手たちが金メダルを目ざしてプレーをすることになります。

ライダーカップなどを見てみると、国旗を背負って戦う選手たちはいつものレギュラーツアーでは見せないような感情を出していて、非常に高揚した雰囲気ですね。

ゲリー・プレーヤーが世界選抜チームのキャプテンとして参加し、2003年に南アフリカで開催されたプレジデントスカップでは、ジャック・ニコラスをキャプテンに据えたアメリカチームと最後まで接戦になりました。当時、ランキングナンバーワンのタイガー・ウッズと3位のアーニー・エルスとのプレーオフでも勝負がつかず日没を迎えて、キャプテン同士の話し合いで引き分けた、という異例の決着でした。プレジデントスカップは、「アメリカ対世界」というフォーマットですが、やはり国を代表する誇りが選手の手モチベーションになり熱

戦を生み出すのですね。

ラグビー大国のニュージーランドのゴルフ関係者と先日話をする機会がありました。ラグビーW杯での日本チーム活躍の話題で盛り上がったのですが、特に外国出身の10人が日本チームを支えてくれたことは素晴らしいことだったとのコメントでした。

そのうちニュージーランド出身の選手たちが7人もいたことから、ニュージーランドの方も熱心に日本チームを応援してくれていたそうです。

他国の選手も認める ニュージーランドゴルフ。

そんな話をしながらニュージーランドのゴルフファア、2005年の全米オープンで優勝したマイケル・キャンベルの話題になりましたが、マオリ族の血を引く彼はまさに真正銘のニュージーランド人で、一緒に彼のプレーをフォローするギャラリーもニュージーランド出身の人が多く、刺青も含めユニークなゴルフファアとして記憶にあります。一方で現在のニュージーランドのゴルフを代表する選手といえば、ダニー・リーとリディア・コーですが、二人とも韓国生まれでダニーは8歳の時に家族と移民をした後にニュージーランド国籍を取

Vol.24
移民の
代表選手

移民をも応援する ニュージーランドの 懐の深さ。



得、リディアも同様にニュージーランド人として大会に参加しています。寛容な移民政策を取っているニュージーランドだけに、ゴルフファンだけでなく、一般市民も、生粋のKiwiであるマイケルと同様に彼らをニュージーランドのプロゴルフファアとして応援をしていますし、今度のオリンピックでもニュージーランド代表として出場するそうです。

ニュージーランドと同様にアメリカも移民の国だけあって、海外からのアスリートたちがアメリカ国籍を取得してアメリカ人として各種のスポーツで活躍しています。今回のラグビー日本代表チームを支えてくれた外国出身の選手を見ると、旧来の枠組みを超えた、新しいスポーツの世界が見えてきたような感じがありました。



ゴルフビジネスの
プロフェッショナル
神野方仁 (じんの・みちひと)

1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary/www.tpi-j.co.jp/ceo_blog/

イラスト/ソリマチアキラ